

石油化学工業協会における自主行動計画(2019年度)

＜産業保安に関する行動計画の基本的な考え方＞

保安・安全は「安全基盤」に支えられ、更にそれらは、「8軸で構成される安全文化」が土台となっていると云われている。

石化協では、これらの考え方に、「2011年～12年の3件の重大事故から得られた4つの課題」を織り込んで、具体的な取組みを行っている。

＜産業事故の発生状況＞

(1) 保安事故の発生状況

石化協(会員現28社)では、2015年より、事故(異常現象)の把握範囲を従来の石油化学事業所から全事業所に拡大した(事業所数:約60→約130)。

・昨年(2018年): 重大事故1件発生。本事故は、定修工事中の設備火災事故であり、死傷者を伴うものではなかった。

それ以外は、比較的軽微な事故強度3pt未満^(*1)の事故がほとんどであった。

・本年(2019年): 現時点^(*2)で重大事故の発生無し。

なお、2013年以降から現時点まで、死亡事故の発生無し。

(*1) 石化協では、事故の影響度をCCPS評価法に基づくポイント(pt)数として表し、定量的に把握している。

(*2) 当協会把握。2019年11月12日時点。

石油化学工業協会における自主行動計画(2019年度)

<産業事故の発生状況(続き)>

(2)労働災害の発生状況

保安事故同様に労災の把握範囲を2015年より、従来の石化事業所から全事業所に拡大した(従業員:約3万人→約6万人)。

- ・昨年(2018年):死亡災害1件発生。
(従業員:重量物(フレキシブルコンテナ)荷積み作業中下敷きになった)
- ・本年(2019年):現時点^(*3)で死亡災害1件発生。
(協力会社員:荷揚げ作業中巻き込まれ)

(*3) 当協会把握。2019年11月12日時点。

石油化学工業協会における自主行動計画(2019年度)

＜産業保安の取り組み＞

(1) 会員企業の取り組み状況

① 企業経営者の産業保安に対するコミットメント

- ・経営トップが基本理念や基本的な方針を示し、それら理念・方針を確実に実行することが重要。
- ・具体的には「安全はすべてに優先する」「コンプライアンスの遵守」などの意思を常に示し、基本方針に関するメッセージを繰り返し発信し、従業員のみならず、工事協力会社等の一人ひとりに行き渡るようにするとともに、経営層と現場とのコミュニケーションの充実を図る。
- ・加えて、産業保安への適切な資源配分(人材、設備等)により、保安・安全確保の維持、向上を優先して進めることも明確にする。

② 産業保安に関する目標設定

2019年度においても、昨年度同様に「重大事故ゼロ(保安事故+労働災害)」を目標。

しかしながら、2019年11月把握時点で、重大労働災害(協力会社員死亡災害)が1件発生し(前述;荷揚げ作業中巻き込まれ)、目標は未達。

石油化学工業協会における自主行動計画(2019年度)

(1) 会員企業の取り組み状況(続き)

③ 産業保安のための施策の実施計画の策定

3件の重大事故の解析から得られた4つの課題及び保安の基盤強化に対する取り組みの実施計画を策定している。

特に、1) リスクアセスメントの充実

(従来の対象に加え、緊急停止、スタート、ストップ等の非定常状態、誤操作・誤判断の想定、4M変更作業、異常反応の可能性も対象)

2) 危険に対する感性、危険認識能力、知識及び技術の向上とプロセス全体を把握できる人材育成

3) 世代交代への対応に向けた社内資格制度の充実、機械保全技能士等の公的資格取得の推進

4) 工事協力会社も含めた安全管理実施 など。

④ 目標の達成状況や施策の実施状況についての調査及び評価

毎年、目標の達成状況や施策の実施状況を具体的に確認し翌年度の計画に反映させる。

⑤ 自主保安活動の促進に向けた取り組み

・保安の向上に地道に努力する従業員やその取り組みを評価し、自主保安活動の促進及び安全文化の醸成を図る。

・安全文化の醸成に当たっては、学会のみならず、民間の安全コンサルティングなどを活用することも検討する。

石油化学工業協会における自主行動計画(2019年度)

(2) 業界団体(石化協)の取り組み状況

当協会では、事故情報の共有、保安の取り組み等、会員企業単独で検討するより、協会として共同で取り組むことで広範囲の情報が得られ、大きな効果が期待出来る事項に重点をおいて活動を行っている。

なお、その方針から、8軸から構成される「安全文化」については、「学習伝承」と「動機付け」の2つに重点をおいている。

①保安に関する経営層の強い関与

現場に最も近い経営層である事業所長の保安に関する意見交換をコンビナート地区等において行う。

②「学習伝承」に関する取り組み

・「事故事例巡回セミナー」(年2回。2019年度は通算第21回目開催済、第22回目開催予定)

リスクアセスメントのための感性向上を目的として、若手管理者の気づきの機会とするために諸先輩の事故及び保安対策等の経験を共有するもの。

・「保安推進会議」(年1回。2019年度は通算第37回目を10月に開催済)

会員企業の保安・安全、設備技術部門の関係者が集まり、各社のベストプラクティス事例などの情報交換を行う。また、大学等の学識経験者の参画(特別講演)を得て、協会会員の保安・安全への取り組みについて指導、助言などの支援を仰ぐ。

・「保安研究会」(製造プロセス毎に7つの研究会を設置しており、毎年延べ約15回以上開催している)

現場の保安レベル向上のために、現場課長等による保安の取り組みに関する情報交換を実施。また、この場を利用して、危険認識能力の向上を図るために過去の事故事例等を用いた討論型演習(教訓等の抽出)も行っている。

石油化学工業協会における自主行動計画(2019年度)

(2) 業界団体(石化協)の取り組み状況(続き)

②「学習伝承」に関する取り組み(続き)

・「産業安全塾」(石化協、日化協、石連の3団体共催):

保安・安全に関する専門家の育成教育の強化を図るため、3団体会員会社からの受講者対象に、官・学・産からの講師陣による講義とレポート提出、グループ討議等を実施。

(2019年度:10月開講済)

・「業界内外で発生した事故の原因や教訓の共有化」

・保安事故については、

協会内WGを毎年4回程度開催し、1件ごとに会員会社が教訓とすべき観点を整理した上で協会内共有化を行っている。

加えて、石油連盟との情報の相互共有化も適宜行っている。

・労働災害については、

重篤な労災(休業4日以上)に対して、協会内WGにて、1件ごとに作業者の行動、設備の状況等を分かり易くするなどの補足を加えた上で協会内共有化を行っている。

・なお、重要な教訓を含む保安事故や労働災害については、

全会員会社を対象にした当事者会社による説明会を行い、情報共有化の徹底を図っている。

石油化学工業協会における自主行動計画(2019年度)

(2) 業界団体(石化協)の取り組み状況(続き)

③「動機付け」に関する取り組み

保安活動への動機付けの機会として、地道な保安活動に従事し、優秀な安全成績をあげた現場の職長クラスなどを対象に保安功労者として、年1回、保安表彰式を開催し、石化協会長が直接表彰を行う。

(2019年度:第11回目を10月に開催済。14社14名を表彰した。)

<自然災害による産業事故の発生防止に向けた取り組み>

地震津波対策や最近多発している風水害対策に関する対応方針などの情報交換や共有化を行う。

- ・関係委員会等への参画
- ・地震津波をはじめ風水害等、自然災害による事故発生防止に関連する行事(講演会など)を「津波防災の日(11月5日)」前後に行う。

(2019年度は10月末に3団体(石化協・日化協・石連)共催の講演会を開催済)

<産業保安に関するスマート化に向けた取り組み>

高度な保安への取り組み(IoT・ビッグデータ等の新技術の導入他)についての情報共有などを積極的に行う。

- ・関係委員会等への参画
- ・会員会社向けの新技術活用に関する勉強会開催

以上